

平成27年度  
第2回岡山市基本政策審議会  
会議録

日時：平成27年5月29日（金）14：00～16：30

場所：岡山市役所本庁舎3階第3会議室

## 出席者

あべ 阿部	のりこ 典子	NPO法人みんなの集落研究所首席研究員
あべ 阿部	ひろふみ 宏史	岡山大学理事・副学長（企画・総務担当）
いけだ 池田	たろう 太郎	岡山市連合町内会副会長
いずみ 泉	ふみひろ 史博	株式会社中国銀行取締役会長
おかもと 岡本	れいこ 玲子	岡山大学大学院保健学研究科教授
かじたに 梶谷	しゅんすけ 俊介	岡山商工会議所ビジネス交流委員会委員長
かたやま 片山	ひろこ 浩子	NPO法人岡山市日中友好協会会長
こしむね 越宗	たかまさ 孝昌	株式会社山陽新聞社代表取締役会長
こまつ 小松	やすのぶ 泰信	岡山大学大学院環境生命科学研究科教授
しおみ 塩見	まきこ 槇子	岡山市連合婦人会会長
たかはた 高旗	ひろし 浩志	岡山大学教師教育開発センター教授
はまだ 浜田	じゅん 淳	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授
ふじわら 藤原	けいこ 恵子	株式会社フジワラテクノアート代表取締役社長

敬称略五十音順

開会

1 開会

○事務局（植月） 定刻が参りましたので、ただいまより平成27年度第2回岡山市基本政策審議会を開催いたします。開会に当たりまして、越宗会長より御挨拶をお願いいたします。

2 会長あいさつ

○越宗会長 会長を仰せつかっております越宗でございます。委員の皆様は本当にお忙しい中を御出席いただきまして、まことにありがとうございます。

本日は、平成27年度第2回目の審議会でございます。前回、先週でしたが、19日に第1回の審議会を行いまして、岡山の活力の創造と調和のとれた都市づくりということをテーマに皆様から貴重な御意見を頂戴いたしました。本日は、「市民生活の向上と岡山の担い手づくり」をテーマにしまして、健康・医療・福祉など4つの分野について御審議をいただくことになっております。

今回も大変広範囲なテーマで、論点は多岐にわたると思っておりますけれども、市民生活の質をいかに高めていくのか、そしてまた岡山市の将来を担う人づくりをどう進めていくのか。またそれには多様な主体が活躍できる社会というのをどう築いていくか。そういった点に着目をいただきまして、皆様それぞれのお立場から御意見を賜りまして、今日の審議会を実りあるものとしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。簡単ですが、挨拶とさせていただきます。

○事務局（植月） 続きまして、本日の委員の皆様の出席状況ですが、2名の委員の方が御都合により御欠席でございます。なお、基本政策等に関する審議会設置条例第6条第2項に規定する委員過半数の御出席をいただいておりますので、当審議会は成立しております。

申し遅れましたが、本日の司会を務めさせていただきます総合計画課課長補佐の植月でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。

それでは、本審議会設置条例第6条第1項により、本審議会の議事運営につきましては、越宗会長をお願いいたします。

○越宗会長 それでは本日も会議次第に沿って議事を進めさせていただきたいと思っておりますけれども、議事に入ります前に、いつものように傍聴の取り扱いについて、事務局から説明をお願いします。

○事務局（植月） 今のところ傍聴希望者はいらっしゃいませんが、特に支障がなければ、本審議会を公開といたしまして、このあと、傍聴希望者が来られた場合は、傍聴の許可をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○越宗会長 本日の審議につきましても、特に支障になる事由はないと思われまので、本会議を公開にしたいと思いますが、委員の皆さんいかがでしょうか。よろしゅうございますか。

〔異議なし〕

### 3 協議事項（1）「市民生活の向上と岡山の担い手づくり」について

#### ①健康・医療・福祉

○越宗会長 それでは、そのようにさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入らせていただきます。協議事項の1「市民生活の向上と岡山の担い手づくり」について協議をいたしたいと思います。まずは事務局から資料の説明をお願いします。

○事務局（門田） 事務局の総合計画課長の門田でございます。恐縮でございますが、座って説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

お手元に資料1が4分冊になってございます。資料1-1から順番に御説明をさせていただきます。いつものように各データの一番下に番号を振ってございます。便宜上これをページという言い方をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

まず、1ページでございます。これは既にごらんいただいた資料でございます。平成32年に岡山市の人口がピークになって、そこから人口減少に入るのではないかと。その中で生産年齢人口とか、年少人口の比率は下がって行って、老年人口比率が上がっているということになっています。

2ページをごらんください。高齢者のところだけを切り出したものでございます。平成22年には高齢者比率21.5パーセントが、57年には3人に1人の33.6パーセントに高まる。人数的にも15万1,000人が22万4,000人ということで、7万人以上が増えるということが見込まれています。こうした中で、これから当分の間、後期高齢者の数が急増するということがございます。平成22年に7万5,000人だった後期高齢者が、37年には11万6,000人で、4万人以上増加するということがございまして、平成32年以降は後期高齢者の数が前期高齢者の数を上回るという状態になっております。

3ページ・4ページにつきましては、高齢者1人を何人で支えるかというものでございますが、これはごらんのとおりですので説明は省略させていただきます。

5ページでございますが、見ておわかりのように、日本は先進諸国の中でも例のない急

速な高齢化が進行していくということでございます。

8 ページに飛ばさせていただきます。65 歳以上の世帯主のいる高齢者世帯でございますが、平成 22 年を見ますと、右のグラフでございますが、夫婦のみの世帯が最多となっております。今後、一人暮らし高齢者の方がだんだん増えていきまして、32 年には一人暮らし高齢者の方が夫婦のみを上回ると、逆転してその後も増え続けるということでございます。

9 ページでございます。岡山市の健康寿命は男性が全国と同じで、女性が全国を上回っております。一方で、平均寿命の方を見ていただきますと、男性・女性ともに全国よりも短くなっておりまして、平均寿命との差が大きくなってございます。

10 ページをごらんください。健康寿命を指定都市の中で比較いたしますと、岡山市は男性が 18 番目、女性は 15 番目ということで、平均よりも低いという状況でございます。

時間の関係で、15 ページに飛ばしてください。そこに医療資源の比較がございます。岡山市は一般病床の数ですとか、医師数というのが見ておわかりのように充実しております。これに伴って、国保の一人当たり医療費も高くなってございます。

16 ページをごらんください。介護資源の比較をしたものでございますが、左側の在宅系サービス事業者数を見ていただきますと、デイサービスが 1 位とか、小規模多機能型居宅介護が 1 位。それから、右側の施設系サービス事業者数を見ていただいても小規模特養が 1 位、グループホームも 1 位というようなかたちで、非常に介護資源も恵まれた状況にあるということでございます。

17 ページをごらんください。介護保険を取り巻く状況でございますが、平成 26 年の最新の状況を見ますと、岡山市の要介護認定率、65 歳以上の被保険者数の中で要介護認定を受けた人の割合が 20.9 パーセント、人数で言うと 3 万 6,138 人となっておりますが、これが平成 37 年の見込みとしては認定率の方は 27.5 パーセントに高まって、人数としても 5 万 2,518 人が見込まれると。

右側に認知症高齢者数の予測人口を掲載しております。平成 25 年には 2 万人、平成 39 年には 3 万人を超えるだろうというふうに見込んでおります。

18 ページをごらんください。先ほどの認定率でございますが、岡山市は指定都市の中では 4 番目に高いということでございます。

20 ページをごらんください。これは自宅で亡くなった方の割合が左側に載っております。これは実態でございますが、岡山市は 11 パーセントから 12 パーセントの間で推移しておりますが、全国と比べますと低い値となっております。一方で、どこで医療や介護を受けたいか、あるいは終末期はどこで過ごしたいかということで希望を聞きますと、特に終末期については 43.8 パーセントの方が自宅で過ごしたいというような希望があるということでございます。

それでは、資料 1 - 2 に移らせていただきます。1 ページをごらんください。岡山市の子どもの数でございますが、平成 22 年に約 10 万人、人口全体に対する子どもの割合が 14.3

パーセントでございます。これが平成 57 年には 7 万 4,000 人に減少して、割合も 11 パーセントに低下すると見込まれております。

2 ページをごらんください。子どもの割合を指定都市の中で比較いたしますと、3 番目に子どもの割合が高いということになってございます。

4 ページをごらんください。岡山市の大学・短大数は 11 校でございます、人口当たりで見ますと、指定都市の中では 3 位でございます。

その下の 5 ページのところに学生数がございます。岡山市は 3 万人ということで、これも人口当たりで見ますと、指定都市の中では 6 番目に多いということでございます。

6 ページをごらんください。全国の学力・学習状況調査でございますが、小学校・中学校の学力でございます。左側が主に「知識」に関わる問題の正答率ということで、これはいずれも全国より低い状況になっております。右側が「読解力・表現力」に関わる問題の正答率ということで、直近の 26 年の群を見ますと、特に中学校で全国平均よりもかなり低くなっております。

8 ページをごらんください。暴力行為の発生件数の推移でございますが、岡山市の児童・生徒 1,000 人当たりの暴力行為の発生件数は、小中学校ともに国・県の発生件数を上回っているということでございます。

飛びまして 10 ページをごらんください。不登校の出現率でございます。これも岡山市の出現率は、全国や県を上回っているということでございます。小中学校ともに上回っております。

14 ページをごらんください。地域協働学校（コミュニティ・スクール）の取組状況でございますが、岡山市は京都市に次いで非常に積極的にコミュニティ・スクールに取り組んでいるということでございます。

少し飛ばさせていただきます、21 ページをごらんください。年齢別の就業率がございますが、女性の就業率は 25 歳以降は男性より下回っております。特に女性の正規職員の割合は、男性よりも大幅に低くなってございます。

22 ページでございますが、今に関連いたしまして、有業者に占める女性の割合が、岡山市は指定都市の中で 5 位と高いわけでございますが、一方で管理的な職業の従業者に占める女性の割合で見ますと 15 位にとどまっているということでございます。

24 ページ、これは以前見ていただいたと思いますが、岡山市の子どものいる夫婦の共働き率が 50.1 パーセントということでございます。

26 ページでございます。我が国の男性の家事・育児に費やす時間は、世界的に見ても最低の水準で、1 時間ちょっとでございます。

その下の 27 ページ、これも以前御説明をさせていただきましたが、夫の家事・育児時間が長いほど第 2 子以降の出生割合が高いという明確な因果関係が見てとれるということでございます。

資料 1 - 3 に移らせていただきます。

1 ページでございます。岡山市には特別名所の後樂園、それから国宝の吉備津神社本殿・拝殿をはじめ、さまざまな文化財が存在しております。

2 ページをごらんください。指定都市別の国指定史跡の数です。岡山市の中では岡山城をはじめ造山古墳とか、たくさん史跡がございます、指定都市の中では京都市に次いで高くなっております。

3 ページには地図を載せておりますが、後樂園・岡山城周辺のエリアに美術館・博物館等の文化施設が集積をいたしております。

4 ページをごらんください。この博物館にはいろいろなものが含まれているのですが、ここの数を人口当たりで見ますと、岡山市は指定都市の中で3番目、ただ利用している人の数を人口当たりで見ますと低い方から3番目という状況になっています。

8 ページをごらんください。「岡山のブランド力と愛着度」という民間の調査でございます。この表の欄外に「前回」と書いてあるのが2013年の数値でございます、認知度が41位、魅力度が35位、愛着度が42位という非常に低い値が並んでいたのですが、2014年の数値を見ますと、認知度は27位とかなり改善しております。ただ、魅力度は38位とちょっと落ちておまして、愛着度も32位であまり高い状態ではないということでございます。

11 ページをごらんください。岡山市におけるスポーツ大会の開催状況で、100人以上規模のスポーツ大会の開催件数を見ますと、年々増加しておまして、平成26年には98件、その内訳として全国大会が35件、西日本大会が17件という状況になっております。

資料1-4に移らせていただきます。

1 ページをごらんください。NPO法人の数の推移でございますが、岡山市内の法人の数は法律の整備後、年々増加しまして、平成26年度で320法人となっております。

2 ページをごらんください。右側の人口当たりのNPO法人数を見ていただきますと、岡山市は指定都市の中で6位となっております。

3 ページでございますが、NPO法人の中でも幅広く市民からの寄付を受けているなどの一定の基準をクリアした団体、認定NPO法人と呼んでおりますが、これに該当するのが岡山市は9法人あるということで、人口当たりで見ますと、岡山市が指定都市の中で一番多いという状況になっております。

4 ページは指定都市のアンケートによる結果でございますが、協働のしやすさという環境がどうかということで見ますと、岡山市は指定都市の中では16番目ということで、すぐ下の5ページに、岡山市の遅れている部分というのが、協働をしくみにするためのプロセスの公開とか、評価・見直しへの市民参画、協働事例の公開・活用、こういった点の点数が低くなっております。

6 ページをごらんください。岡山市では地域の課題は地域自ら解決するために、市内96の学区・地区で安心・安全ネットワークを設立していただいております。そこに参加している構成団体でございますが、ごらんのように地縁団体が中心ということで、その性格上

やむを得ないと思うんですが、NPOとか、企業とか、そういう地域・地縁以外の団体の参加は比較的少ないということでございます。

8ページをごらんください。安心・安全ネットワーク活動の課題ということでございます。メンバーが高齢化してきているというのが一番に挙がっております。二番目に若い世代の参加が少ないということが挙がっております。

飛びまして、12ページをごらんください。昨年、岡山市内でESDに関するユネスコ世界会議を開催したところでございますが、岡山市は公民館のESD関連事業が全館で100パーセントの館で行われている。あるいは、ユネスコスクールに51校が参加しているといったようなかたちで、非常にESD推進の基盤が充実しているということでございます。

13ページをごらんください。岡山市における外国人人口の推移でございますが、平成21年をピークに減少傾向でございます。国籍では中国が最多で、韓国・朝鮮がこれに次いでおります。

15ページをごらんください。岡山市の国際友好交流都市・地域でございますが、ごらんのように8つの都市・地域と交流をしているということでございます。

16ページをごらんください。留学生の数でございます。岡山市の数値は21年以降しか出ておりませんが、近年岡山市内では減少傾向にあるということでございます。

17ページでございます。岡山市の刑法犯認知件数は減少傾向でございますが、人口当たりの刑法犯発生件数で見ますと、指定都市の中で8位ということで、高めになっております。

18ページをごらんください。岡山市の交通事故の人身事故件数でございます。岡山市は緑でございますが、減少傾向でございます。人口当たりの死者数は指定都市の中では3位と、これも非常に高くなっております。

19ページをごらんください。岡山市の消費生活相談の状況ということで、年々相談件数が増加しております。特に高齢者が4割を占めております。金額ベースでいいますと、右側のように50パーセント以上が高齢者のトラブルということになっております。

21ページをごらんください。ちょっと見にくいと思いますが、左側にグラフがあります。救急搬送人員、これは年々増加しております。その中でも高齢者の割合が増加しているということが見てとれるかと思えます。

一番右の下側が、現場到着時間を比べたものですが、全国指定都市の現場到着時間が伸びている中で、岡山市も伸びる傾向ですが、消防署所の適正配置等によって平成25年には若干短縮をしております。ただ、上側の病院到着時間を見ていただきますと、やはり救急件数が増加しているに伴って岡山市でも伸びている。ただ岡山市は、現場到着時間は全国や指定都市平均を上回っていますが、病院到着の時間で見ますと、全国よりも指定都市平均よりも早く到着しているということでございます。

24ページをごらんください。自主防災組織の組織率ですけれども、東日本大震災を契機とする防災意識の高まりとか、市民説明会の啓発効果などから徐々に組織率は高まってき

ているところですが、全国と比べると依然として低いという状況でございます。

26 ページをごらんください。これはよく聞かれていらっしゃると思います。南海トラフ、巨大地震が今後 30 年間にマグニチュード 8～9 クラスの地震が発生する確率が 70 パーセント程度だと言われております。

29 ページをごらんください。近年、全国的に台風の大規模化とか、集中豪雨ということが問題になっております。こうした中で岡山市においても平成 23 年の台風 12 号では被害が相次ぎまして、そこに水色で塗ったところが浸水区域になったということで、そういったことが大きな課題になっています。

以上、駆け足でございますが、資料の説明を終わらせていただきます。

○越宗会長 ありがとうございます。ただいま事務局からの資料説明がございましたが、大体市民生活の質の向上とか、あるいは岡山担い手づくりという総合テーマにしたがっての、この 4 分野の考え方、視点というものはそんなに大きな違いがない。分野によっては、多少力点の置かれ方が委員の皆様によって異なる部分はありますけれども、そんなに大きな違いはない。

ただ、じゃあ何をすべきか、どう対応するべきかということにつきましては、具体の論、あるいは方策に切り込まれた、参考になるような意見をお書きの委員さんもいらっしゃいますので、これからの皆様それぞれに御意見を述べていただく中で、そういう意味ではポイントを絞って御発言をいただければありがたいと思います。

それでは、まず「①健康・医療・福祉」分野についての御意見をいただきたいと思います。

それでは、阿部典子委員さんから、お願いいたします。

○阿部典子委員 皆様もお書きになっているようなので、手短にお話しさせていただきます。

まず、先ほどデータで出ているような 75 歳以上のこれから増加していく方々の生活支援ということで、やはり移動、免許を持たない方が増えてくるということと、一人暮らしが増えてくるという点でいうと、移動支援や地域の中でのネットワークづくり、助け合いのネットワークづくりというのがとても大切になるのではないかなと思っています。

移動支援というと、街中でいうとバリアフリーであるとかユニバーサルデザインで、出やすいような街中のつくり方。それから、移動に困る中山間部においては、移動ができるような交通の支援が必要になるのではないかなと思います。

それから、55 歳から 75 歳までのこれから地域の担い手にぜひなっていただきたいような層を、これから第二の人生としての活躍の場づくりをもっと支援をしていくということが大事じゃないかなと思います。

地域に入らせていただいても、55 歳から 75 歳、80 歳ぐらいまでの方の地域の担い

手としての活躍というのは本当に素晴らしいです。そういった人の発掘を退職者予備軍の発掘、例えば企業で退職される前の方々の勉強会であるとか研修会であるとか。それから、例えば退職された方々のコミュニティなんかで、自分たちの働いてきたスキルを何かしら地域に生かすというふうなことも含めて考えられるのではないかなと思います。

最後に、地域で地域を支えるのがポイントというふうに書いていますけれども、今、厚生労働省の方でも新しい総合事業ということで、生活支援をどう地域の中でカバーしていくかということがとても課題になっております。今までまちづくりの分野で頑張ってきた人たちがこれから自分たちの生活を支えるために何かできないかということをごんごん考えてきはじめていらっしゃいますので、そういったところも大いに連携しながら、これをみんな総出で、例えば医療であるとか、スーパーだとか、企業であるとか、そういったようなところも一緒に取り組むということが必要になるのではないかなと思っています。以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。では、阿部宏史委員さん。

○阿部宏史委員 資料を見させていただいて、健康寿命の短さがすごく気になったところです。やはり、岡山の人間というのはよく言われるように車をよく使うため、日常の運動が足りないことが原因かなと思いました。

そういう意味で、健康管理に向けた意識啓発を常に実施していくということと、身近なところで体を動かすことができるような場づくりが重要と思います。

それから、まちづくりとも関係しますけれども、できるだけ歩きやすい、歩行者を主体に置いた都市環境整備を進めていく必要があると思います。今日なんか随分暑いですがけれども、暑いと、やはり歩かずに車に乗った方が楽です。車の中はエアコンが利いていますから。そういうまちではなくて、もう少し緑と水の環境があれば、少し木陰を歩いてみようかなという気持ちにもなると思いますので、歩ける都市環境づくりが大事ではないかと思っています。

それから、一人の生活者として、最近高齢化が進んできて、私の町内会の中でも、とにかく町内を支える人がいないというのが一番の問題で、町内会長になり手が無いということもすごく大きな問題です。

また、町内の中でお年寄りがどこに住んでいるのか十分に把握されていないというようなこともございます。これまで地域コミュニティを支えてきた人と人の絆というのが非常に希薄になっていきますので、そういったものをいかに再生していくかが大きな課題だと思います。

私はデータの中にありました公民館を拠点とするESDの活動に取り組んでいます。公民館は1つの地域の、目に見えるかたちでの拠点だと思いますので、そういった施設を核にした地域コミュニティ活動の活性化ですとか、コミュニティの再生ということに取り組んで

いく必要があると思います。以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。池田委員さん、お願いします。

○池田委員 資料を見させていただきまして納得しましたので、1番と3番につきまして  
は発言ありません。よろしくお願いします。

○越宗会長 では、岡本委員さん、お願いします。

○岡本委員 3つの軸で考えていきました。まず1つは健康寿命の延伸を目指したヘルス  
プロモーションを行っていくということです。これについては、生涯を通じた健康づくり  
ということで幼少時から引き続き、職域から地域、地域の前期高齢者から後期高齢者と、  
途切れのない健康づくりの推進対策が必要だと思えます。

中でも、予防というところでは防げる病気で住民を死なせないという徹底した強い意志  
で対策に臨むということが大事だと思います。防げる病気で住民を死なせないというこ  
とは、予防できる対象のターゲットングをきちんとしっかりするという事です。どうい  
う人を予防しなければいけないのかということを中心に分析した上で人と予算を配分し  
ていくことが大事と思えます。

特に、生活習慣病予防、認知症予防、孤立化の予防というようなところが大きな課題と  
思っております。それらをやっていくためには企業側だけ、地域だけで頑張っていくとい  
うことではなくて、途切れのないという意味もあって職域の段階から健康経営の理念を普及  
し、健康は会社にとって資本であり、地域にとっても資源なんだという考え方をきちっと  
普及した上で、実質的な期限と行動目標を決めた継続的、かつ組織的な活動の推進をして  
いく必要があると思えます。

その中で地域から職域へ、あるいは職域から地域へと両者が主体となって、両者から発  
信する健康づくりの担い手育成のしくみが必要と考えております。

例えば、地域から企業に協働活動のボランティアの養成に行ったり、もうすぐ退職して  
地域に出るぞという人の育成を地域から発信する。あるいは、地域発信で自分たちの企業  
が持つ資源を地域の健康にも生かしていくということを地域発信でもやってもらう。そう  
いうことが大事と思えます。そのためのインセンティブになるような何か仕掛けが必要と  
思えます。

2番目には、医療費や介護給付費の抑制を目指して、そのための自立支援が非常に重要  
と考えています。市民や働く人が健康であることに価値を置き、自立しているというこ  
とが大事だということをきちっとわかるように行政や保険者がリーダーシップを果たして  
いくことが大事ですし、保険者がリーダーシップを果たしていくためには行政がかなり意図  
して保険者を指導していくことも必要と思っております。

健康増進法でも国民の責務として健康な生活習慣の重要性に理解を深めて、将来にわたって自らの健康状態を自覚するとともに、健康の増進に努めなければならないという国民の責務が示されておりますし、介護保険法においても、国民は自ら要介護状態になることを予防するために常に健康の保持・増進に努めよということで、国民の努力義務が定められておりますので、そういったことを普及する中で住民さんたちをエンパワーし、住民さんたち自身が、市民の方自身が健康になろうとされるような理念の普及、雰囲気づくりが必要と思います。

そのためにも、実態を、経年比較や地区ごとの比較によって見える化をして、住民さんたちの意識付けをきちっとしていくことも重要と思います。

それらを推進するためには、やはり予防を専門にしている保健師ですとか、公衆衛生専門職の適正な配置も必要と考えております。

それから、在宅で亡くなりたい方が多いのにパーセントが少ないというデータがありましたけれども、岡山は他県にはある在宅ケアとかターミナルケアを担う専門看護師の養成、認定看護師の養成が岡山には極めて、ゼロでしたかね。この間看護協会のデータを見ますと非常に少ない。県内養成が非常に少ないので、そういったところも看護協会等とも連携をして養成をしていき、その人たちが働けるような場も増設する、訪問看護ステーションも増設するといった方向を考えていくのがいいと思っております。

最後、3つ目です。市民サービスの向上ということでは、ワンストップサービス、ノーマライゼーションを目指した行政改革も必要と考えております。学生と一緒に実習に行きますと、市民の方とか、地区組織の方にお話を聞く機会もよくありまして、3障害（身体・知的・精神の障害）の窓口が一本化していないことで非常に不便であると。両方にまたがる障害を持った人があっちこっち行ったり来たりして不便だということをお聞きしますので、縦割り行政の弊害がないよう、そういった課題があればそれを洗い出して、実質的な改善策を練っていくのが非常に重要と思っております。

障害者自立支援法が平成15年から設置されて、もう12年になり、平成22年の調査でも障害者相談支援事業につきましては全国で8割近い市町村が3障害一元化しているというデータを厚労省が出しているのを見たので、こういったことについてはしくみの一元化を図っていただけたらと思います。

ノーマライゼーションについてもその理念の普及や相互交流の機会と場づくりが重要と考えております。以上です。

○越宗会長 それでは、梶谷委員さん。

○梶谷委員 高齢者がかなり増えてくるということですが、高齢になっても働ければ生産人口は減らないのかなという感じがいたしましたので、そういった意味では年齢で切るというよりもまず高齢者が健康維持をして、そして働ける場、これは企業だけではなくて地

域社会で貢献する場も含めて、そういった場を提供するということが必要ではないのかなということ。

それから、かなり医療・介護資源というのは充実しているけれども、逆にこの辺の公的費用が高いということであれば、充実したものを、それはいざというときの予防であって、かといってみんながそれを使うと公的費用がもたないということですから、いかに使わずに予防的に用意しておくかということが必要なのかなということを考えました。

それから、かなり高齢になってくると個人で健康状況が違いますので、その健康状況に応じて社会に貢献できるような多様な就業や活躍の場を提供できるようなコミュニティというのが必要なのではないのかなと。

そういった情報がある意味でいうと相談に乗れるような仕掛けということによって、自分の健康状況に応じて、でも何らかの貢献ができる。そのことによって生きがいとかを維持することがまた健康にもつながるかなと思っています。仕事がなくなるといつ頃にふけこむみたいですから、何らかの役割を持っている人は結構元気な方が多い。そういう場をつくるということ。

それから、医療・介護資源いっぱいあるのですが、これを一括で把握をして、ネットワークを構築していくということが必要になる。地域の医療福祉というところは、今はそれぞれの個別の判断で施設を設置したりいろいろしていますから、あるところは重複し、あるところが足りないという。逆に言うと、この地域としてどのような医療介護資源の配置をしていくのか。そのことによってトータルのコスト管理を行うということ。

そして、今充実しているということからいうと、それだけまだより多くの人を受け入れる余裕があるということであれば、そういうことで岡山に行くといろいろと医療福祉が安心だ、いざというときには安心だから、元気なうちに岡山に住んでおこうかな、というふうになるような発信ができればなということを感じました。

それから、最終的には自分の健康管理というのは、今どちらかというところカルテは病院が持っていますけれども、個人が自分の健康状況や受診履歴をきちんと把握する、それによって、自分の個人のデータをそれぞれの医療機関なり福祉機関が活用しながら最適なサービスができるような地域包括のシステムを構築していくことによって、予防と、いざというときのケアができるようなしくみがいいと思います。

○越宗委員 ありがとうございます。それでは片山委員さん。

○片山委員 先ほどから健康寿命についてたくさんお話が出ていますが、健康に生をまっとうすることができることは私たちの理想ではないかと思っています。

それには何をしたらいいのか、先ほどからも出ていましたが、やはり食べるもの、そして運動、それから社会参加ということになると思います。食の情報というのはあふれるほどいろんなところで出ておりますので、それぞれが考えなければいけないと思っています

が、運動に関しては手軽にできる公園とか、広場といいますか、そういう施設があるというかなと思います。

中国に行きました時、洛陽市でしたけれども、朝の公園で大勢の人たちが集まってダンスをしたり、太極拳をしたり、いろいろなことをして体を動かして、みんなで楽しんでいるのを見ました。一緒に行った方が参加されて大変楽しかったと言っていました。

健康にいいことですが、日本の風土に合うかどうかということになると、ちょっと疑問に思いますが、そういう場があれば、同じことが可能になるのではないかなと思いました。

新しい市民病院ができて、すごく立派な病院です。病院というだけではなくて、このテーマであります「生活を豊かにする」をめざし、市民生活の向上、暮らしづくりの拠点を目標にしている新しい市民病院です。

これはぜひ利用させていただきたいと思っております。立派になってしまいますと、ちょっと利用するのにハードルが高くなって気軽に行けないということもあるかなと思います。できるだけハードルを低くしていただいて入りやすい病院であってほしいと願います。病院と福祉関係が連携した地域ケア総合センターというのがありますが、どんなことでも相談に乗りますよという優しい場所であってほしい、市民病院という名前のおりに多くの人が利用し、市民の「健康で長寿」の願いを実現させてほしいと思います。

それから、市民病院では、他の病院もそうだと思いますが、ホームドクターやかかりつけ薬局を持つという考え方を推進していこうとしているようです。大きな病院では診療時間がかかるし、病気によってはホームドクターやかかりつけ薬局のほうがいい場合があります。これを周知してそういうかたちが普及すると、より予防医学の役に立つのではないかなと思っております。

認知症が非常に増えておりまして、私、自分も認知症になるんじゃないかなと思ったら非常に怖くて、どうしたらいいだろうかと考えます。「元気で長生き」のために是非、認知症の研究と対策に力を入れてほしいと思います。

○越宗会長 それでは、小松委員さん。

○小松委員 なかなか難しくて。まあ、重視すべき視点や考え方のポイントというのは、健康・医療・福祉のトライアングル、ネットワークということなんでしょうけれども、つながりをしっかり付けましょうということです。岡山に来て19年目に入りますけれども、やはり毎回申し上げますけれども、気候も穏やかで、ある意味では高齢者であるとか、体の不自由な方とかに優しい風土ではないかなと。

さらに、非常に病院が多い、医療機関が多いなというのが正直感じるところです。これだけ岡山市の人口にいるのかなと思うんですけれども、周辺の自治体からもおいでになるはずですから、それはそれで結構かと思いますが。それが独立的にあるんじゃなくて、やはり連携をとってもらいたい。そのためにはありきたりですけども、岡山市が健康福

祉都市宣言をすると。それに尽きるんじゃないかなと。

その上で、実は私、ずっと以前ですけれども、6年間ほどお世話になっていた信州長野県なんですけども、そこに臼田町というのがございまして、そこに農村医療で非常に著明な佐久総合病院、JAグループが建てた厚生連の病院なんですけど、そこに若月先生という非常に有名な方がおられて。で、実は企業城下町ではなくて、もう巨大な病院城下町というような感じになっていまして、その展開を進めて、メディコポリス、つまりいわゆる保健・医療・福祉を軸にしたまちづくり、あるいは地域振興と。それと第一次産業とか観光とか、いろんなものがくっついて地域振興、地域づくりをしましょうと。この考え方で、強引に引っ付けたわけではございませんけれども、もう素材と言ったらおかしいですが、パーツがそろっていると。それをどうメディコポリスというかたちでつくりあげていくかというようなかたちでのあり方、ビジョンづくり等々、それから諸活動というのも求められるんじゃないかと思います。

それから、一番最初の集まりのときに申し上げましたけれども、やっぱり年をとって非常に住みやすいところで、高齢者に優しいまちづくり。そういった中で定年退職になったら岡山市で住みたいねというような「ついのすみか岡山市」というぐらいなイメージで、移住とか定住環境を整備してほしいと。その際もやはり多くの委員さんがおっしゃってましたし、多分13ページかどこかにあった全国の調査なんですけれども、働きたいと。60歳を超えても働きたいと回答している人が約9割だと。やはりそういう就業条件といえますか、そういったものをあわせて考えていくということが必要じゃないかということです。以上でございます。

○越宗会長 それでは、塩見委員どうぞ。

○塩見委員 皆さんもおっしゃっていますが、資料を見させていただいて、高齢者が非常に増えてくる。そして、医療費とか介護費、医療環境、介護環境が非常に整っているせいもあるのかわかりませんが、非常に増加が目立ちます。ですから、これを抑制するという必要だろうと思います。

そのためには、皆さんがおっしゃっていらっしゃるように健康な寿命を延ばすということが非常に大切であると思います。昨年から健康ポイント制度を市が取り入れておりまして、これに参加していただいた市民の方は少しずつ健康にはなっていくのかと思いますけれども、そういうことは続けていって、健康寿命を延ばすということが必要となります。

それから、岡山市でも特定健診の実施をしておりますけれども、この受診率が非常に低いと思います。ですから、特定健診の受診率を上げまして、病気を早期発見しまして。聞きましたところ、人工透析なんかをしますと、すごいお金がかかるそうですが、早期発見をして、そういう医療費を抑制するということが必要かと思います。

それから、私ども栄養改善協議会もやっております、婦人会もやっておりますが、生活

習慣病を予防するために男性の料理教室を地域で開催しているんですけども、非常に男性の参加が少ないですね。ですから、男性の方にも自分の健康を考えるという意識を改革するということが必要ではないかと思っております。

それから、次の要介護・要支援の認定。これはもう先ほど申しました。重複しますので、割愛をさせていただきます。

それから、単身高齢者の安全・安心の確保ですけども、これも私たち連合婦人会の方でも対象高齢者にお食事の配食を、多いところは年12回、少ないところでは1回とか、私の学区では3回なんですけれども、安全確認をしながらお弁当の配布をしているというふうな活動をしているんですけど、やはりそれは毎日のことですから、毎日のことを見るわけにはいきませんので、そのためにはやはり安全・安心のネットワークとか、コミュニティ活動、コミュニティにはすべての地域の団体が入っておりますので、そういうところへ皆さんが協力をして、見守る体制を整えることが必要ではないかと思っております。

○越宗会長 では、高旗委員さん、お願いします。

○高旗委員 よろしくお願ひいたします。資料を拝見いたしまして、これは「高齢者」とつい言ってしまいがちですけども、実は自分のことだなあと思いながら読ませていただきました。順調に20年たちますと、私も定年を超えているようなところにおりますので、将来的には自分のことなんだなと思ひながら拝見をしました。

そういう点で、特に7ページ・8ページのスライドについていいますと、単身高齢者という方も増えてまいりますので、そのためのセーフティーネットの構築がいるなということをつくづく考えさせられました。

4つ目の議題の「安全・安心」ともつながるところですけども、例えば単身の御高齢の方で火事が起きるとか、事故が起きるといふようなことについて、本当に増加が懸念されますので、考えていく必要があるなと思ひました。

2つ目は先ほど「健康寿命」のことが話題になっておるんですけど、ちょっと一緒にスライドを見ていただくと大変ありがたいと思うんですが、まず9ページを見ますと、確かに平均よりは岡山は低い、ということが出ています。しかし9ページだけ見ますと、男性であればマイナス1.4ですし、女性であればマイナス0.9なので、そう統計的な有意差はないのかなと思ひて見ておりました。

ところが、1ページをめくりまして、10ページのスライドを見ますと、都市で並べましたときに岡山は非常に低いところにあると。これだけ気候風土がよくて、安全・安心でありながら、なぜ健康寿命が低いのかなというふうにおもひまして、ほかにいただいているデータを眺めておまして、18ページの方にスライドを飛んでいただきたいんですが、18ページを見ますと、要介護認定者数が非常に多くて、それが4番目に来ている。そのグラフの少ないところを下から5つ拾っていきますと、千葉・相模原・さいたま・静岡・浜松と

いうふうにあります。この5つの都市が、もう一度10ページに戻っていただくと、健康寿命の長いところに来ているんですね。特に男性です。

これも何か関係があるのかなと思ったわけです。つまり、岡山は非常に医療や介護支援が充実しているが故に、たくさん認定し過ぎちゃいないだろうかということです。基準がそんなに変わるようには思いませんから、その基準どおりにはなさっているだろうと思うんですけども、ひょっとして安易な認定ということが起きていないだろうか。つまり、「健康寿命が低い」ではなくて、「健康寿命を下げられている」という、そういう側面がないだろうか。そういうことでデータを丁寧に見ていきながら、他都市との比較もしていただいて、データに基づいたミスリードというものをぜひ避けていただきたいなと思いました。これがまず3つ目の点です。

もう1つは、やはり先ほど他の委員の皆様からも出てきましたが、健康都市宣言というようなものがあるなというふうに、私も思っております。それは、将来的なこういうことに関わるコスト減を目指さなきゃいけないということです。

そのためには、先ほど申し上げましたように、私ども以降の世代からもそういうことをしていかなければ追いつかないということだろうと思いますので、財政の健全化ということも視野に含めながら、ぜひ「健康」ということをキーワードにしていく。そのことはたくさん認定者を増やすということとは異なる、というあたりで考えられる必要があります。

同時にそれは、前回の第1回で議論したまちづくりや交通や環境とも密接に関連するのではないかなというふうに思いました。以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。浜田委員さん、お願いします。

○浜田委員 私も3点ほど挙げているのですが、一番上の丸は、要するに岡山市の特色というのは医療も介護もサービス供給の水準というのは、少なくとも量的には高いと。そのぶん国保とか、介護の保険料なども少し負担が高くなっているということなわけです。

委員の皆様のお意見を非常にそのとおりでなと思ったのですが、本当に優位性はあるのだろうかということと、それからこんなに必要なのかという、そういうことですね。それについてなかなかデータの的には言えないんですけども、例えば岡山大学病院についていいますと、1日当たり予約の外来患者さんが3,000人から3,500人いるんですけど、そのうち3割以上の方、つまり1,000人以上の方は、岡山市以外に住んでいる方。つまりほかの県の方とか、あるいは県北の方ということになっていますので、医療については地元の方が必ずしも岡山の病院を使っているわけではないと。外にかなり開かれているということになります。

岡山大学病院の場合、御承知のとおり肺移植とか有名ですけども、例えば肺移植でいいますと全国で第1位の件数がございますし、それから手術件数なんかでも少なくとも全国の大学病院のベスト5と申しますか、5番以内に入る件数をやっています、私は岡山

の医療水準ってやはり相当高いんじゃないのかなと考えていまして。また、その岡山市以外の患者さんからも頼りにされている地域ではないかと思っております。

2点目は、梶谷委員さんが御指摘になりましたけれども、要するに地域の医療・福祉インフラをトータルでマネジメントすることができていないことがあるかと思うんですけども。要するに無駄がないかとか、もうちょっと効率化を図る余地がないのか。ニーズに沿ったサービスが提供できているのかどうかと。そういうところ確かにおっしゃるように、トータルで誰かがマネジメントしているという世界ではなくて、個別にそれぞれでやっているということなのですが、1つは、今岡山県が地域医療ビジョン、地域医療構想というのを全国的に各県がこれから始めるんですけど、県が主導して地域医療の全体像みたいなものをチェックしていくということがこれから始まるというようなことになっています。

実は、岡山市でもかなり市役所の方でコーディネートされていて、例えば急性期の病院、高度急性期の病院を集めて、今病院の医療にどういう問題があるかとかいう議論をしておりますし、それから一方で在宅医療とか、在宅ケアをどうやって展開していったらいいのかというような議論もやっています、たまたま三日前にも新しい市民病院で高度医療の方とか、慢性期医療の方とか、介護の方とか集まって、かなり熱心な議論がされていまして。

例えばどういう問題がといいますと、その治療が終わってもなかなか受け側といいますか、すぐには自宅に帰れないと、退院できないということで、病院の方で退院させたくても患者さんを退院させることができないといったような問題があるんですけどどうかとか、そういうような関係者がかなり熱心に、ある意味建設的に議論をしているといったような状況にありまして。

私は結構そういう市町村レベルでそういう議論が行われているというのはやはり岡山はかなり進んだ市ではないかというふうに考えていまして。

やはり、こういう地道な取り組みをこれからも進めていく必要があるというか、こういう方向でいいんじゃないかというふうに思っているんですけど、先ほど来聞いていますと、住民の皆さんとか、あるいは経済界の皆さんとか、言論界の皆さんも入っていただいて、医療とか介護って若干細かい議論になってくるんですけど、できるだけわかりやすく我々も発信することが必要だなというふうに感じました。以上でございます。

○越宗会長 ありがとうございます。どうぞ。

○藤原委員 皆さん、専門的なことを述べられまして、私が一言申し上げたいのは健康寿命を延ばす。そして、食生活の徹底指導とありますが、越宗さんもおっしゃるように、長野県は減塩をすることによって随分寿命が延びたと聞いております。個人個人の自覚というよりは、岡山市全体で取り組んでいただきたいなというふうに思います。

もう1つございますのは、高齢者に対して、バス・電車を無料にする。そうすることに

よって、老人は外に出ていくことになり、バス停まで歩く、そしてバスから降りてからも歩くというように、特別運動しなくても歩けるように。歩くという機会が長くなる。

いつも思いますけれど、東京は無料ですからバスに乗ると老人の方が大変多い。あれを見ますと、お金を持っていていっていらっしやるんでしょうけど、無料ということになればやっぱり出ていこうかなという意識になるんじゃないかなと思います。以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。それでは、泉副会長。

○泉副会長 健康問題に関しては、皆さんおっしゃったとおりでありまして、私は、医療費が人口当たりで高い、一度、医療費そのものを分析されたらどうかと思うんですね。浜田先生がおっしゃったように、データの的には、件数ベースで見たときには、多分高額医療だとか、高度医療の割合が高いのではないかなと思うんです。それが本当にそうかということを確認すると、仮にそうであった場合には、じゃあそれは岡山の優位性なので、それをアピールした方がいいというふうに思いますし、データとしてその逆が出た場合はやはり啓蒙活動をして、あんまりお医者さんにかからないようにしようじゃないかというふうなキャンペーンもぜひ必要じゃないかと思いました。

あと、健康寿命キャンペーンですが、ESD 運動、十分非常にやらないといけないと思いますし、私も団塊の世代なんですけれども、職業ごとに結構プライドを持っているんですよ。例えば、工学系だけでなく、学校で子どもさんを教えたことがあるとか、どこかの職業だったとか、それは 40 年も 50 年も同じことをやっていけば、それぞれ匠の技をもっているはずなので、そういうものを町内会だけでなく連合会みたいなもので社会参加をしていくという気持ちがあれば、多分健康寿命が延びるんだろうというふうに思います。そういうふうなことをやられたらどうかと思いました。以上でございます。

○越宗会長 ありがとうございます。私は、皆さんが大体触れられたことと同じなんですけれども、要は健康寿命を岡山市は延ばしていかなくちゃいけないなと思いますし、予防は治療に勝つという言葉もあるんですけど、やはりどんどん医療費を抑えるという意味から、高齢な方がどんどん外へ出ていく、それを促していくためのいろいろな方策を考えていくということが、これは皆さんが述べられたとおりで大事だと思います。

岡山市がポイントプロジェクトを今年から進められていますね。健康づくりをする市民にポイント。あれなんかは大変いい試みだろうと思いますし、市民参加とかまちづくりへの取り組みというものを行政だけでなく企業等にも広げていって、これを岡山でも本当にさまざまなかたちで広げていくべきじゃないかなと感じます。

それから、これも皆さん触れられましたけども、市民病院の地域ケア総合推進センター、これがやはり医療と介護の連携を強めていくために、ぜひとも今後の利用促進に期待をしております。これがまた 1 つの大きな業界の横の連携モデルというか、牽引力を発揮する

ことになるのではないかと思いますので、期待しているところでございます。

### 3 協議事項（1）「市民生活の向上と岡山の担い手づくり」について

#### ②教育、子ども、女性

○越宗会長 大体そういうことであります。今、気が付きますと、分野が4つありました。多少ここからテンポアップをしていかなきゃいけないかなというふうに思っております。

早速、「②教育、子ども、女性」分野について入りたいと思いますけれども。テーマ上、女性委員さんに先に御意見をいただこうかと思っております。阿部典子委員。

○阿部典子委員 教育、子ども、女性ですね。この議題で思ったことは、もちろん女性の働きやすさ、女性の社会復帰というのはとても重要と思うんですけども、アンケートの中で仕事を一度辞めて、子育てに専念している理由としては自分の手で子どもを育てたいという方が45パーセントというのを見ましたが、そういうことに対しての地域とか社会の支援もこれからもっともっと多様に、多岐にわたるようなかたちで考えられたらすごくいいのかなというふうに思いました。

主ではなくて、サブ的な役割を地域や社会でということ、そういう意味で、地域で子どもを育てるような事業の推進とか、高齢者の生きがいであるとか、これからリタイヤされた方の新しい第二の人生とか、そういったようなところでもつながれたらなというのは、例えば朝御飯を食べる子どもがどんどん少なくなって行って、それも問題だよというような話もあったかと思えますけれども。コミュニティカフェで朝御飯をみんなで食べる。

それから、放課後児童クラブであるとか、運動の場、それからお父さんとか、男の人と子どもが遊べる場というのも、これから女性だけが子どもを育てるということではなくて、女性が主にしても、それ以外の人たちがいろんなかたちで子どもと関わっていけるという、そういう環境づくりができればいいのかなというふうに思いました。

それから、例えば笠岡で言えば、NPO 法人の子ども劇場笠岡センターというところが、ふれあい・たすけ愛サービスというのをやっているんですけど、子育てに困ったとき、それからおじちゃん・おばあちゃんが介護に困ったとき、移動や通院に困ったとき、そういういろんな困りごとを助け合えるようなしくみが、コーディネーターさんがいて、お互いがボランティアをしながら、お互いが助け合えるという、大きな家族のような助け合いのしくみをつくっているというような例もあつたりしますので、そういったところも活用できたり、推進できたり、岡山市内でも生み出せたらいいのかなと思いました。

それから、女性がみんな正規職員になって、女性の社会進出の理想的な形かという、ちょっとそこも難しいのではないかと考えていまして。正規職員ではなくても生きがいを持って仕事ができるという働き方を示していくとか、みんなで作っていくというようなことができればいいのではないのかなと。

例えば、福祉の専門職であるとか、ここでは公民館の臨時職員とか、そういう方々はコ

一ディネーターとして、技術職を持っている人として育成されて、生きがいを持つこともできるんじゃないかと。経済活動と地域活動の間にあるグレーな領域ということをもう少し専門職化するみたいな、そういうこともできたらいいのかなと思いました。

それから、働き方が、女性の社会進出が難しいわねとか、子育てが難しいわねとかという話のときに、やはり問題になってくるのが教育費、子どもの教育のために稼がなきゃいけないとか、子どもの教育のためにここに住まなきゃいけないとか、子どもの教育のためにこれだけの時間を費やさなきゃいけないというような、そういうようなことが結構よく聞かれるんですけども、教育費削減のための施策ということが何かしら考えられないだろうか。これはすごく漠然としているんですけども、例えば学習支援の NPO であるとか、ある公民館では教育の職をされていた OB の方々が子どもたちの宿題を見てあげるみたいな、そういうことをされているところが、今、岡山市内でも実際にある。そういう私塾をみんなで作っていくであるとか、そういうこととかも、もしかしたらこういう話の中に関連してくるのかなと思いました。

○越宗会長 ありがとうございます。岡本委員さん。

○岡本委員 女性ということではいいますと、どうして岡山では女性の管理者が少ないのだろうか、正規で働いている人が 20 代、30 代になって少なくなってしまうのだろうか、その原因が何なんだろうなというところを分析して、それに対する対応策を考えていく必要があると思いました。

まあ、女性はあまり正規で働いていないのに学力が低かったり、いじめがあったり、切れやすかったりという、そういうデータを見るとどうしてなのかと、どうしてでしょうかね。その分析も必要と思います。

教育という点では、学力の低さがデータに表れているということがちょっと意外だったんですけども、高齢社会のことともあわせて考えると、やっぱり若い人を呼び込む戦略は非常に必要だと思います。

今でも住みやすい、便利、安心ということでは高齢者の流入しやすい条件が整っているわけで、結構岡山って岡山好きの人が多くて、多少排他的なところがある中に高齢者がいっぱい流入して、単身で住んで、孤立してと考えると、あまりそこに力を入れるよりは、やはり若い人を呼び込む戦略。

例えば、今は低いんだけど、能力アップ岡山戦略とか、10 年で学力を全国平均以上に、暴力やいじめとかを半減するとかというキャンペーンを張って、その成果を見せながら、岡山で暮らしてみたい、岡山で教育させてみたいと思うような、そんな戦略があると思います。

それをやっていくときには、幼少時からエビデンスに基づいて、継続的な、健康的な脳を鍛える、そういう教育のあり方も取り入れていくといいと思います。例えばそれは仲間

と運動すると前頭前野が活性化されたり、早寝早起きがセロトニン神経を活発化させるといった、そういうことを全国にはモデル的にやっているところもたくさんあるので、そういった有効だと検証されたものを取り入れることで、積極的に岡山がよいよという成果を出していくことが重要と思います。

働く意識というところでは、幼少時、義務教育からの社会貢献意識を高めることによって進学意欲とか、県内就労意識とか、男女共同参画意識というのも高めていければいいと思います。

学校支援ボランティアさんが多いということですので、彼らを活用したり、高齢者の生きがい対策や児童クラブ等の連動によってもそれをやっていけるというふうに考えます。以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。では、片山委員さん。

○片山委員 女性問題ですけれども、女性管理職、政治家、それから官公庁の幹部に女性の登用をお願いしたいということがあります。ラオスと台湾に行きましたとき、女性の団体といろいろ交流しましたが、そのときに各界の女性登用の数を聞きますと、少なくとも日本の割合よりその倍ぐらいのパーセントでありました。

それは女性自身から手を挙げたり、自然にそうなったんですかと質問しましたら、やはりパーセンテージを決めて、例えば30パーセント、50パーセントと決めて、ちゃんとその割合で女性を登用するという事になっているそうでした。

日本でも2020年までに30パーセントの女性管理職ということ政府では目標にしているようですけれども、岡山市も例えば5年以内に女性管理職、政治家などの数値目標を半強制的に立てていただくというのはどうかなと思います。

上場企業の女性役員の3割は社外の方ということで、社内の方が非常に少ない。では、どうしてそういうことになるのかということなんですが、それはやはり社内には人材がないという答えが非常に多かったそうです。

大学で女性リーダーを育成するというコースをつくるというのはどうでしょうか。そういうかたちで女性リーダーの意識付けをして、育てていただく。既に関西学院大学やお茶の水大学にはそういうコースがあり、それは大学生だけではなく社会人で既に働いている女性も入っているということを読みまして、そういうコースで女性リーダーを育成することも必要かなと思いました。

それから、子どもの教育ですが、グローバル人材の育成ということ。これも本当に耳にたこができるぐらいいわれております。グローバル人材をせっかく育てても、岡山の担い手にならず、東京とか、大阪とか、世界に飛んでいってしまうということで、グローバル、グローバルな視野で考えて、ローカルな視点で行動できるというグローバルな人材を育てようということが大学等で目標になっております。

非常に具体的にになりますが、小学校から英語、IT スキルの教育、それから違いを受け入れる心の教育をやる。英語にしても、IT にしても、確かに語学というのは道具ではありませんけれども、それがなければコミュニケーションがとれないので、小さいうちからそういう勉強のできる環境づくりが必要ではないかと思っております。

学校、家庭、地域の連携教育力ということなんですが、それぞれは実際によくやっているし協力しあっていると聞きます。でもまだ充分ではないように思えますので3者を結ぶ人というのがとても大事になってくる。コーディネーターとか、スクールソーシャル・ワーカーやカウンセラーなどそういった人たちがもっと必要ではないか。またその能力のレベルアップということも必要ではないかと思えます。

それから、今はネット社会ですが、スマホなどの子どもに対する悪い影響力というのが山陽新聞に書いてありました。スマホの使い方とか、ネット社会の功罪を学ぶことを、授業に取り入れていくべきではないかと思えます。以上でございます。

○越宗会長 塩見委員さん。

○塩見委員 まず、勉強だけがすべてではないんですけど、この資料を見ますと、大変学力の低さに驚いております。やはり自立して家庭を持つ、そういった社会に出るためには、判断する最低の基準の基礎学力というのは非常に大事であると思えます。

小学校3年生ぐらいまでで基礎学力があれば、中学校へ行っても勉強ができるんですけども、この間中学の先生にお会いしましたら、九九ができない子どもがいるということ。そういうことで、やはり教室でじっと勉強していられなくて教室を出ていくことがあるということなので、学校の方で落ちこぼれをなくす教育を徹底していただくことと、もう1つが女性も社会進出というんですけれども、やはり子どもと一緒に勉強する時間もぜひとっていくというふうな意識を持っていただきたい。これは男性でもなんですけれども。私たちのときはお母さんと一緒に勉強したもんですよね。ですから、そういうことも考えていかなければいけないと思えます。

それから、もう1点は、学校だけに子どもたちをお任せするのではなくて、地域で親子クラブとか、児童クラブとかございますけれども、家庭でのしつけといいますか、人間の基本ですので、そういうものを一緒になって考える機会を増やしたらどうかと思っております。

それから資料にもありましたけど、男性の家庭責任、家事・育児への参加。これは世界的に見ても最低の水準であるというふうに書かれてありますけれども、本当に意識の面では男女の役割、古典的な役割分担意識というのは建前上だんだんよくなっております。けれども実際となったら、なかなか。やはり企業で働いているということで、私の娘の旦那さんも深夜に帰ったりとか、なかなか全然お手伝いできないというふうなことなので、やっぱり企業の働き方というものを見直すことも根本にはあるのかなと思えますけれども。

男性もしんどいと思うんですけど、家庭責任を女性とともに担っていくという意識をもっと持っていくようなことを考えていかなければいけないと思っております。

○越宗会長 ありがとうございます。

○藤原委員 皆様と重複する部分は避けさせていただきますが、ここにあります女性の労働力の上昇、私は機械メーカーですが、トップが女性ですので、私が社長になってから会社が随分変わりました。といいますのは安倍さんがあのようにおっしゃる前から女性を抜擢して起用して、そして女性の力を会社に持ってくるといいますか、そうすることによりまして会社の雰囲気が変わりました。

一番、私が最初にやりましたのは、男性の意識改革。女性はよくわかってくれていますので、話をすれば皆さん了解してくれそうですけれども、特に中年男性は女性を採用する前に、出産があるからとか、子育てがとか、そういうことをうちの社員でも口にする人はたくさんいます。

ですが、あなたはいったい社会全体を考えたときに、今、少子化となって、子どもを産むことが社会に貢献できることであると。ですから、フジワラテクノアートは、出産をなるべく推進して、そして女性が働きやすい職場づくりに務めましょうと。それを15年間やってまいりました。そうすることによって、うちの社員は出産する女性が多くなりましたし、絶えず誰か育児休暇・産休を取って休んでおりますけれども、帰ってきましたら必ず同じ部署に就いて、復活ができるような体制にしております。

そうすることによりまして、女性のやる気がものすごく出てきてまいりまして、女性の管理職も何人か出ましたけれども、これから若い人で次を目指す人が何人も出てくるようになりました。まず、私がいいたいのは男性の意識改革をやっていただきたいなということです。

2番目は少子化対策。少子化対策の一環として会社で細々と出産を勧めておりますが、やはり岡山市はいろんなことを取り組むのではなくて、1つ少子化に取り組むモデル都市をつくっていただきたい。少子化に取り組んできますと、人口も増え、税金も増え、いいことだらけでございますので、まず子どもを育てやすいまちづくりに励んでいただきたいと思っております。

3つ目、教育ですが、本当に学力低下、不登校、いじめ。岡山は本当に3悪どころか、4悪、5悪もそろっている県だと、私も以前聞いたことがあります。こんなこと言っているのかわかりませんが、先生の給料が大変低い。全国でも最下位か、下から数えた方が早いような状況です。

やはり教育者としてプライドを持って子どもたちを教えられるような地位向上に励んでいただきたいなというふうに思います。以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。皆さんに御意見をうかがう時間がだんだんなくなりまして、高旗先生、御専門の立場からコンパクトに御意見を賜ればと思うんですが。

○高旗委員 ありがとうございます。簡単に申し上げますと、「いきいき学校園づくり」ですとか、「地域協働学校」による縦の連携、横の連携を岡山市は勧めておられるわけですが、その岡山型一貫教育というのは強力に推進していただきたいなと思っております。と言いますのも、次期の学習指導要領等改定等を含めましたときに、若い先生の授業力向上支援というのが待ったなしの状況だろうと思うんですね。そういうときに、学校と地域との連携というのは不可欠の要素がありますので、そこはぜひ進めていただきたい訳ですが、それ以上に次のことをお願いしたい。つまり、若い先生方のみをターゲットにするわけではありませんが、私が皆さんにぜひお願いしたいことは、学校の先生方に「自由」と「ゆとり」をぜひ創ってあげていただきたいということです。

教師がすべきことを増やすような施策ではなくて、現在動いているものの中で、減らすとか、止めるとか、捨てるとかということをとにかく決めて、それを本気で実行していくということに力を傾けていただきたいと思っております。

学校の組織的な実践力を高めるには、やはり授業改善点ということが何より必要です。全国学力学習状況調査で点数が低いと出ておりますが、5ポイント低い、10ポイント低いという項目があります。それは教科教育の専門家に言わせると、「子どもの能力の差ではなくて、教師の指導力の差だ」とハッキリ言います。そういうことを考えますと、授業力の向上というのは待ったなしのところにあるということです。

もう1つの側面は、教育問題というのは経済の問題でもあるというふうに思っております。特定の不利な条件である保護者に対して、きめ細かい支援の届く施策の充実を図っていただきたいと思えます。皆さんもよく御承知のとおり、相対的な貧困率の高さがこの国にあります。16.3パーセントという数字は、子どもの6人に1人が貧困の状態にあるということです。それは3人世帯で年収が221万円を下回る暮らしをしているということで、到底遊びや教育や医療にお金を回す余裕がない家庭が増えているという実態なんですね。

それはOECDの基準から見ても下から4番目、アメリカ・スペイン・イタリアに次いで4番目に低い状況にあるということです。世代を超えた貧困の連鎖を断つために、昨年度閣議決定されましたけれども、「子どもの貧困対策に関する大綱」というのが出たわけです。

この問題、貧困というのはとりわけ「ひとり親」の、しかも母子家庭のところにかぶさってきている問題だということですね。全体で124万世帯ぐらいある母子家庭の中で、就業しておられるのは85パーセントぐらいですが、しかしながら7割は年収200万程度で暮らしておられるという状況があるということ。

そういう中であって、子どもが落ち着いて勉強できるゆとりがあるかということ、それは到底望むべくもないわけです。そういう困難な状況を抱えている子どもがいる。そういう家庭がある。そういう家庭の子どもがいるにもかかわらず、いっぼうで着実に成果を上げ

ている学校もある、と言われます。

では、その学校がどんな取り組みをしているかという、ひとつは「きめ細やかな学習指導」をしておられる。「きめ細やかな学習指導」ができるために、非常に実践的な校内研修が充実している。そして、小中連関の取り組みをしっかりとやっているの、子どもに関する情報を9年間という義務教育の中で共有しながらつないでいくことができる。等々、効果を上げている学校もあるわけで、それはやはりとにかく授業を核にした校内研修の充実というところに帰るわけですね。

そういうふうを考えますと、女性の問題であるとか、教育の問題、子どもの問題というのはすべて経済の問題とも連動しておりますので。しかも今は、先ほど女性の社会進出の話もありましたが、基本的には男性が主たる稼ぎ手であることを前提にしたモデルですので、その中で死別であれ、生別であれ、子どもを抱えた女性が伴侶と別れて暮らし始めるということが起きると、いくつもの不利な条件を同時に抱え込んでしまうことが起きるわけですね。そういうことに関して、きめ細やかなケアができるようなことをぜひ求めたい。

最近、私も学生を見ておりますと、その学生ではないのですが、例えば自分の友達で、自分の祖父母を親が介護してたんだけど、その親が倒れたために進学をあきらめた友達がいるというようなことを聞くようなケースもちらほら出てきています。そうした子どもに対するさまざまな対策は間違いなく将来の投資ですので、これは丁寧に見ておきながら、ぜひ対策をとっていただきたい。

そういう点で、今回そのあたりに関するデータが非常に少なかったのは、ちょっと私自身としては残念だなと思います。すみません、長くなりましたが、以上です

○越宗会長 ありがとうございます。梶谷委員さん、いかがでしょうか。

○梶谷委員 一番大切なのは、やはり経営者がどれだけこういった教育問題だとかといったところに関わるかというのが非常に大事だなというところで。

私も今、県の教育委員をやるようになって、教育問題だとかそういうところの情報がかなり入るようになりまして、逆に、学校の先生方と懇談をしたりというような中で、学校の抱える課題と、逆に言うと経済の問題のつながりみたいなことも見えてきたということがあって、やっぱり、もっともっと教育委員会、教育現場と経済界が積極的な情報交換をやる中で、お互いが抱えている課題だとか社会全体としてどうだということを知り合っていて、それがまた教育の中にも生かされる。また、サポートするために、経済界として、企業として何をしなきゃいけないかということを考えていくということが必要だろうなということを感じました。

もう1つは、せっかく大学がたくさんあるので、この大学をいかに地域として、また教育、いろんなことに活用していくか。そのためにも、それぞれがお互いの連携を、情報交換をしっかりとやるということが非常に大事だと感じました。

○越宗会長 ありがとうございます。では、阿部委員。

○阿部宏史委員 まちづくりとか地域活動のいろんな場で、若者の参加ということがよく言われます。そういう意味で、大学・短大は若者の集まったところですから、その若い人たちの力をいかにまちの中に使っていくかというしくみをもっと積極的に考えていく必要があるのではないかということです。私どもの岡山大学でも、最近は岡山市との連携で大学生がまちづくりに随分と参加していますが、まだまだ他にも学生はいるぞという状況ですので、もう少し頑張らないといけないかなというふうに思います。

それからもう1点。大学との関係でいうと、多地域から来ている学生が多いということですね。そういった学生たちをまちとの関わりを深めさせて、いろんな体験をして岡山を好きになってもらうということが必要である。それからずっと岡山の宣伝をしてくれるわけですし、あるいは、岡山に定着をしてもらえると、人口増加とか、経済の活性化にもつながる。いろんな面で、もう少し大学との連携を地域全体として深めていく必要があると思います。時間の関係がありますので、これだけで。

○越宗会長 ありがとうございます。すいません。委員の皆さん、それぞれ。

○池田委員 ちょっと一言。

○越宗会長 はい、どうぞ。

○池田委員 一言だけ。19 ページに、放課後の児童クラブが載ってございますけれども。これは、岡山市だけがやっているように書いてるんですけど、実際は地域の町内会が運営しているのであって、このことについては全然書かれてないですね。ということで、基本政策の中にもう少し抜本的な改革をしていただきたいと強く要望します。たくさんありますけど言いません。よろしくお願いします。

○越宗会長 池田委員さんから御指摘がございましたから、1つ対応をよろしくお願いたいと思います。ほかの委員さんも、どうしてもやっぱりここではこれを言っておきたいんだということがおありでしたら、どうぞ、おっしゃってください。よろしゅうございますか。

### 3 協議事項（1）「市民生活の向上と岡山の担い手づくり」について

#### ②歴史・文化・芸術、スポーツ

○越宗会長 それでは次の第三の分野に進みたいと思います。歴史・文化・芸術、スポーツにつきまして。では、泉副会長さんからいきましょうか。

○泉副会長 総合的に演出して、歴史とか文化をアピールしたらどうでしょうか。岡山城、後樂園、それから現代アートの問題が、市長さんも御関係ある話、国吉康雄の問題は御案内のとおりなんで。それぞれが独立して何かアピールしていて、統合的にアピールされていないんじゃないかと思うんですね。岡山固有の文化、ないしはその振興でもございますから、ぜひやられたらどうでしょうかという話。

それから、ファジアーノの問題はちょっとプライベートのことになりますから割愛します。ちょっと、これ大変なことなんですけども。多分ものすごいことになると思うんですけど、この点については問題提起にとどめます。以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。経済界でスポーツで頑張ってる梶谷委員さんのお話をうかがいましょうかね。

○梶谷委員 スポーツは、先ほどの健康だとか、ああいうことにつながるんですけども。1つは、どんどん最近いろいろとスポーツの大会も、岡山での開催希望が増えて。ただ、来る方からすると、岡山市と県と、いろんな施設がそれぞれに管理がバラバラであって、なかなか統合的に管理できてないということがあって。本当に今の施設が足りてるのか、足りてないのかということも見えてないのが現状ではないのかなということ。

こういったものを一元的に管理をしながら、適正配置ですとか、それから大会の開催ですとか、施設の稼働を上げるというような観点からそういったものを見ていくような組織があって、施設を複合的に活用できていくようなことをやる必要があるんじゃないのかなということ。

それから、豊富な文化財というのがなかなか発信できてないということなんで。これも、文化財が、県と市がバラバラな、最近ようやく連携もだいぶできてくるようになりましたけども、こういった文化財・文化施設も一括して情報を集約しながら、特に学校教育がこういった文化財を使うというところが必要なんではないのかなと。

それから、シティミュージアムですが、せっかく駅前という非常にいいところにあるんですけども。では、岡山の文化財だとかそういうものをどんどん発信してるコンテンツがあるかという意外と少なく、よそから来たもののイベント開催が多いのかなと。もっと岡山の先人だとか文化財とか、岡山の地理だとか、そんなものを地域の人だとか近在からの来訪者に発信するようなものを、常に発信していくということをやっていた方がいいのではないかなということをおもいました。

それから、せっかくある文化財が、いろんな先人が出ておりますけれども、そういったものを活用したワークショップなり、ものをやりながら、新しい芸術文化の創造へつなげていくような活動をやっていたらどうかと思いました。

○越宗会長 岡本委員さん、池田委員さん、何かありますか。

○岡本委員 健康長寿という点から考えると、やはり高齢者の筋力アップ、廃用症候群の予防には、スポーツで筋力を上げていくことはすごく大事と思います。

しかも、社会参加と交流も大事だといわれていることを考えると、外で運動ができるような体制がいる。外へ行こうと思うと、例えば後楽園の周囲を回ろうと思っても、そこへ行くまでの足がいると思うので。今、めぐりんバスなどは朝7時半ぐらいからしか動いてないですけども、朝6時ぐらいに後楽園に届けてくれて。

6時半になると方々でラジオ体操をやっていたり、お城の上では太極拳をやっているグループがあったり。みんなそこ寄って、誰でもウェルカムという感じでやっておられるので。そういうところにポンと行け、7時になったらまためぐりんみたいなのが来て、またおうちにも帰れるみたいな、何かそういうようなしくみが、できると、すごくいいと思います。以上です。

○越宗会長 はい。よろしいですか。では、阿部宏史委員さん。

○阿部宏史委員 歴史・文化・芸術的な点で、全体をトータルした場合の岡山のイメージが見えないというのが、一番地域としての問題じゃないかと思います。

岡山は古代吉備の時代から非常に古い歴史があり、文化財もたくさんあるのですが、それをトータルで体験できる場所がない。それぞれの場所に行ってみないと体験できないというのが、一番の欠点じゃないかなと思います。ただし、歴史博物館のような箱ものをつくるのが解決策なのかどうかは議論のあるところですけども。以上です。

○越宗会長 では、阿部典子委員。

○阿部典子委員 私も皆さんがおっしゃっていることとほとんど同じで、泉副会長や阿部先生がおっしゃっていたような、やっぱり2つ目の丸ですけども、博物館、美術館、県の所有、民間のギャラリー、もちろん市の所有も含めた連携というのが、やはりなかなかできていなくて。それができていると、本当にもっと魅力的に映るのになというようことは思いました。

それから、先ほども梶谷委員さんもおっしゃったような、私もスポーツ施設がたくさんあるなと思ったのですが、それが全市的にどんなふうに活用できていくのか、運用していくのかというようなことを、もっと総合的に考えられたらいいのかなと思いました。

それから、その下でいうと、やはりさっきも岡本委員さんおっしゃったような、ヨガとか健康体操とか、そういうのというのは割といろんなところで見えてきて、すごくいいなと思うので、そういったものにもっと参加できるようなというようことを。このスポーツというところで考えた場合に、やっぱり健康寿命とか、それから道徳というところとあれですけども、そういう教育の観点でいうと、武道とかそういったことも、もしかし

たら関係してくるのかもしれないし。あと、釣りとかまち歩きとか、そういったことも御一緒に考えて、もっといろんな層の人が運動できるようなのということは必要なかなと思いました。

それから、一番上の総社市と周辺地と連携してPRというのは、やっぱり吉備の国ということで、いろんな歴史が、もっともっと古くたどればあつたりしますので。そういう高松城の水攻めが話題になったりであるとか、古墳のことであるとか、そういったとこで考えた場合に、周辺の市町村と連携してPRできることももっとあると思いますので、そのプロモーションというか、そういったことができていくといいのかなというふうに思いました。

○越宗会長 はい。ありがとうございます。では、片山委員。

○片山委員 歴史・文化・芸術・スポーツの生涯にわたって学べる環境づくりがあると思います。県や市町村公民館や生涯学習センターなど、学ぶ場所はかなりあると思います。連携の講座というものを増やして、学んだ人が地域でまた活躍できるしくみというものができたらいいなと思っております。

また、岡山市民が応援するスポーツ団体、例えばファジアーノ、ベル、シーガルズ、これらを **Our team** というか、私たちのチームという熱い思い入れから市民に一体感ができると思います。そういう気持ちを醸成するにはどうしたらいいかなど。わからないんですが、まずその試合を見に行くとか、そういうスポーツをやってみるとか、いろいろあると思うんですが、私たちのチーム、岡山県のチーム、岡山市のチームというような気持ちをつくるにはどうしたらいいかなど考えています。

それから、郷土の先人の業績などへ理解を深めるということ、道徳教育の授業で先人の生き方を学ぶことによって、自然に道徳教育に役に立つようなことがあるんじゃないかと思っています。以上です。

○越宗会長 はい。では、小松委員さん。

○小松委員 郷土愛というんですかね。岡山愛といいますか。残念ながら、私は年を取ってから来たもんですから、そこまでいかないんですけども。義務教育段階で、岡山市学といいますか。例えば、先ほど全国の学力の問題ありましたけども。学力は、それは低いより高い方がいいんでしょうけど。あれは、本当はどれだけの差があるのかと。それを大人になって、あるいは県だとか市だとかいうときに、あれはどのぐらい差が出てきてるのか。意外と差がないんですよという感じがするんですよ。

それよりも、岡山で育った子たちが他の地域に行ったときに、岡山の、あるいは岡山市のうんちくを語る事ができるとかね。そういう子たちが出た方が、何かの丸のパーセン

トが少なかった、多かったと言うことよりよっぽど意味があるんじゃないかと。その際に、ここに抱えているさまざまな施設とか史跡とか博物館とか、そういったところをとにかく訪問させると、活用すると。で、そこの学芸員さんから一生懸命話を聞く、わからなくても聞くというようなことですね。そういったことをどんどんやらせたらいいんじゃないかな。そしたら入場者数も増えるし、子どもたちもそれで学ぶことが多いというふうに思っております。

○越宗会長 はい。では、塩見委員。

○塩見委員 岡山のブランド力が 41 位から 27 位に大きく改善されているわけですがけれども。やはり、これだけ岡山城、後樂園、吉備津神社とかもいっぱい資源がありながら、ちょっと PR が不足しているのではないかというふうに思いますので、しっかり PR すること。それから、愛着が非常に低いということなので、やっぱりそういう岡山の自然とか歴史に興味がある児童生徒を増やしていく。この教育も必要で。そして、岡山を、自分のふるさとを皆さんに自慢できるというふうな子どもたちを増やしていくということが将来につながるのではないかと、このように思っています。

○越宗会長 ありがとうございます。では、浜田委員さん、どうぞ。

○浜田委員 私の意見としては、歴史・文化・芸術・スポーツ、岡山は非常にアクセス利益が高いといえますか、アクセスしようと思えばアクセスしやすい。東京からお客さんがシンフォニーホールにコンサートに来たりといったようなこともあつたりしますけれども。そういう有利さが生かされていないんじゃないかというふうに。非常に偉そうに言ってるんですけども、私自身も、CD とか DVD は見ても、生のものには触れないとか、そのたぐいの人間なので、本当はあまり偉そうなことは言えないなど。

皆様方からいろいろ御提案があつたんですが、そういう市民が文化とか芸術に気軽に触れる、できるだけハードルを低くするような政策も必要だろうと思うんですけども。一方、藤原委員さんが、男性、特に中高年男性の意識改革が必要だとおっしゃいましたけども、我々の方も一歩踏み出すような積極性が必要であつて。今回、市民協働といえますか、市民参加というのがポイントになると思いますんで、我々市民の側も一歩踏み出すといったような積極性が必要かなというふうに考えております。

○藤原委員 この資料 3 の 8 ページの岡山のブランド力と愛着度。認知度と愛着度が前回に比べて随分アップしてるんですね。どういう取り組みをなさったのか。私はこれを見て大変うれしく思いましたので、次回、調査というか、あるときには、もっともっとアップできるようにしていただきたいなど。そうすることで、やっぱり岡山のブランド力を PR す

ることになると思いますので、ぜひ努力していただきたいと思います。以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。皆さん、本当に簡潔におまとめいただきまして。私も、何人かの委員さんおっしゃいましたけど、故郷愛というか郷土愛ということですね。そういうものをどういうふうにしてはぐくんでいくかということが大きなテーマである。

この資料で、国指定の史跡が政令市の京都市に続いて2番目に多い18カ所もあるんですが。これを市民のどれだけの方が認知していらっしゃるかなというふうに僕は思いましたけれども。後樂園をはじめとして、古代吉備文化の史跡もたくさんございますし。歴史遺産というのは、本当に岡山が全国あるいは海外に誇れるようなものがたくさんございますから、やっぱり、市民があらためてそういう歴史遺産の価値というものを再認識して誇りを持つべきじゃないかと、こんなことを強く思ってます。

それから、カルチャー部門。これもすばらしいところで、これが地元よりもむしろ県外で評価が高いというのが少し問題があると思うんですけども。そういう文化施設が集積されているわけですから、子どもたちにやっぱり身近な歴史遺産、あるいは文化施設と触れあう機会というものを、できるだけ多くつくっていただきたいということを思います。

同時に、海外への発信を含めて歴史的な価値をもっとわかりやすく発信していく。そういう、阿部宏史委員さんがおっしゃったのは、そういう場がないから意識が低いのか、意識が低いからそういう場ができないのか、全体を見通すね、歴史文化の。よくわかりませんけれども。とにかくその辺りをぜひ取り組みを進めていただきたいなと思います。

それから、私はスポーツの役を仰せつかっている立場から、ちょっと自画自賛なんですけども。岡山県国体が2005年に開かれまして、それ以降国体の、これは競技力のバロメーターになるんですけども、天皇杯、総合の順位、これがずっと10位代をキープしております。これは岡山県の人口規模を考えますと大健闘だろうというふうに思っておるわけなんですけども。今年の国体も、それを目指しておりますけども。

やっぱり、5年後の東京五輪には、ちょっと大きな目標かもわかりませんが、岡山県から代表選手を30人出そうというようなことで、これからいろいろ取り組みを進めていこうと思っておるんですけども。ファジアーノとかいろいろ出ましたけども、そういうさまざまなスポーツを支える機運をいうものを、官民でさらに盛り上げていくということで、地域の一体化、ひいてはその最初のテーマでありました市民の健康増進にもつながるんじゃないか。そんなふうにご考えておるところでございます。どうも皆様、ありがとうございます。

### 3 協議事項（1）「市民生活の向上と岡山の担い手づくり」について

#### ④市民協働・ESD、安全・安心

○越宗会長 それでは、最後の分野に入ります。市民協働 ESD。安全・安心について御発言をいただきたいと思います。では、阿部典子委員さんから。

○阿部典子委員 これまでの議論と本当に連携する話がこの4番目になるのかなというふうに理解しました。例えば持続可能なESDという、今、取り組みの中でそのベースとなる当事者意識の醸成ということですが、岡山を好きという人、岡山を知って故郷愛のある、郷土愛のある人を育てるといふようなことが、やはりとても必要なんじゃないかなというふうに思いました。例えば、やはり小中学校で地域のことを知る、地域の当事者としての意識を醸成するための教育のプログラムを持つといふようなことが必要なのではないかなと。

それは、小さな子ども、小中学生だけではなくて日常の私たち市民が特定の時間、特定の場所で何かしら学べるという事ですね、今まさにされているような話が地域の人達とセッションできるような場所をつくっていくといふようなことは、そんなに不可能ではないのかなというふうに思いますので、地域づくりを考える場づくりもやっていけたらいいなというふうに思います。

それから、安全・安心ネットワークに関わっておられる会の方というのはとてもたくさんいらっしゃるって、私もいろいろ地域でお話を伺ってびっくりしています。ただ、そういう中で、企業だとか、NPOだとか、そういったところの参加というのは少ない。で、ただ、地域の地縁組織と、そういった少し地域とは関係なく浮遊しているようなネットワーク組織、それの中の組織とが連携できたり、一緒に何かしらを進められるような、そういう取り組みができていいんじゃないかなというふうに思います。

岡山県内では、地縁組織と民間のNPOや企業が、連携してマッチングを行って協働事業をしていくといふような取り組みを進めたり、そういう事業に対しての活動の支援をしているところもありますので、参考になるのではないかなというふうに思いました。

安全・安心ネットワークは、これまでの活動の多分成果なんだと思うんですけども。本当に、総合的にいろいろな方々が参加されていて、福祉も、教育も、母親のことも、子育てのことも、いろんなことを進められているということで。安全・安心ネットワークの名称変更もと思いますが、悪い意味ではなくて、本当に総合的な地域の拠点として、ハブとして、少しステップアップする必要があるのかかもしれないなというふうなことを思いました。

そういった意味で、皆さんたくさんの役をもらって、本当に毎日忙しくされているといふところをできるだけ有効に1つの力に窓口化して、地域のこと、郷土のことを考えられるといふことが必要になってくるのではないのかなというふうに思いました。以上です。

○越宗会長 はい。ありがとうございました。では、順次。阿部宏史委員から。

○阿部宏史委員 岡山のESDは公民館を拠点にすることで、市民協働や持続可能なコミュニティを考える場所を目に見えるようにしています。それから、岡山市は公民館活動が非常に盛んであるという特徴を生かしたかたちで進めています。また、公民館は中学校単位

でありますので、先ほど話にありました地域協働学校のしくみの中にそのまま組み入れることができるということで、ESD の重要なポイントである社会と学校との連携が非常に組み込みやすいということです。

ところで、ESD はみんな公民館でやっているのかということ、岡山以外の他の地域はそうではなく、岡山ならではの特色で、しかも世界に発信できるということで、これからも強調していかないといけないと思っております。

ただ、一番の問題は、コーディネーターの育成とか、担い手が不足しているということです。それぞれの地域でも、公民館に集まるのは高齢の方が多く、これからの持続可能な社会をつくるのを目的としながら、活動の持続可能性に問題があるという、ちょっと皮肉っぽい発言ですけれども。そういったしくみをどういうふうに改善していくかが、大きなポイントだと思います。

そういう意味では、情報提供とか意識啓発も含めて積極的に市民に情報発信をしていくことが重要であろうと思っております。

○池田委員 それでは、私は市民協働と安全・安心についてちょっと発言をさせていただきます。私、何回も申し上げておりますけど、地方自治というのは、市と町内会との連携であるということが第一であろうかと思っております。

町内会の運営活動については一応ボランティアで奉仕していると、柔軟に対応してもらいたい。いつも市の方は、決まったことを町内会に押しつけるということで、その後ろに「町内会は市の下請けではない」と発言させていただきたい。よろしく願いいたします。

次に安全・安心についてですが、ちょっと最近、このごろ降ってわいたようなことが起きて、ちょっと皆さんに見ていただきたいと思っております。というのは、国の出先機関でありました中区の陸運支局が、北区の富吉というところに移転されました。ということで、陸運関係の方がいつも毎日5千から6千台の乗用車、トラック、人で言ったら約1万人の方があそこまで行かれます。ということで、国交省陸運支局の移転で津高地区の交通が大変迷惑してるということ、地元の町内会長からお聞きしております。

53号線については何とか流れてるんですけども、180号線、裏のアスファルトの道が全然できていないというようにお聞きしております。混み合うと、朝なんかは狭い道に大きい車が入ると。そうすると、安全・安心が全然だめです。学校の登下校で出られてる方が、「もうどうにもなりませんよ」というようなことを、私はお聞きしてございますので。ちょっと、本日の会議でどうかわかりませんが、これは新しい道路とか基本政策の中に必ず入れていただければ、私はいいんではなかろうかなと思っております。よろしく願いします。

○岡本委員 市民協働という点では、協働をしくみにすると書かせていただいたんですけど

れども、外から転入してきたものにとってみると、岡山の方々はとても故郷愛・郷土愛に満ちているように思っております。けれど、そこでもう今のままでいいんじゃないか、満足しているような感じがあって、で、そこからもっとよくしよう、もっと上へというようなガツガツ感を感じないと、ずっと思ってたんです。

5ページのデータを見ると、協働をしくみにするためのプロセス公開とか、評価見直しへの市民参画が低いということが表れているというのは、もっと意見を持ち寄ったり、言い合ったり、議論をしたり、一緒に話し合ったりという、そういう場や機会が少ないのかな。で、それをできるような情報公開だったり、実態の見える化というその前段階も、もしかしたら少ないのかな。また公開したり説明したりするということも、もしかしたら課題があるのかな、なんて思いました。

ディスカッションとか議論というのが文化として根付いていないということは教育の問題でもあるんでしょうけれども。教育として大学は今、アクションラーニングをキーワードにすごい改革を行おうとしてるんですが。やっぱり教育の改善は幼少期や義務教育のころからやっていかないといけないでしょう。いろんなことを公開し、ディスカッションするという点では、そういうことを専門的に行う横断的な行政内部の部署を設置して推進していく必要があると考えます。

安全・安心の防災意識の向上という点では、地区組織が既にたくさんあって、安全・安心ネットワークなんかも推進されているので、そういう既存組織を活用しながら防災対策を市民全体が整えていけるようにしていくのが大事と思います。以上です。

○梶谷委員 岡山はNPOがたくさんあるなということで、そういった持ち味をもっと勉強したらどうかかなということを感じました。そういったNPOというのは、非常にいろんな知見を持ってたり、いろんなネットワークを持ってると思いますんで、そういったものを地域として地域をどうするということを考えていったらどうかと。

それから、安全・安心ネットワークですけども。やはり地元の町内会となると結構高齢化をしているという話があります。町内会だけど、本当は企業もある意味でその町内に立地してるということからすると、町内構成員の1人でもあるという観点からすると、安全・安心ネットワークの中に企業が入っていく。そこには若い社員もいるというようなことが、そういった中で関わることによって、今度は自分が住んでる地域とも関わんなきゃいけないということになってくる。そんな関係ができればなということを感じました。

特に、行政・大学・地域住民組織との連携というのが非常に大事になるというふうに思いますし、学生ですとか高校生辺りにそれなりのデータを与えれば、すごくいろいろなアイデアも出てきますし、行動力もあるということで、こういった人をどう、若い人を巻き込んでいくか。そのためには企業や学校みたいなものも、この安全・安心ネットワークの中に組織として入れていくということが大切になるんじゃないのかなということを感じました。

それから、市民協働の認知、広報の充実と参画のしくみということですが。せっかく ESD であれだけ世界会議をやって、その中でいろんな知見があったと思うんですけども、それを ESD だけではなくて、もっとまちづくりであるとか、いろんなことでの市民協働にも応用していったらどうか。相互に情報交換を行って、参画・評価・フィードバック、この辺の制度設計をやっていただいて。

特に若い人への情報発信という意味ですと、やはり小学校になると早過ぎるかもわかりませんが、高校生ぐらいになると十分乗ってくると思いますので、高校生・大学生、そして企業にも声をかけて、若手社員の声を出していくということが必要になるのかと。そのためにも、企業経営者もこういったところに関わっていくということが、そういった方向へ進めることにつながるというような感じがしております。

○越宗会長 はい。では、片山委員。

○片山委員 市民協働 ESD、安全・安心のことにつきまして、1つ目は公民館の充実と活用ということ。多文化共生社会を目指して多国籍防災会議など、外国人市民も巻き込んだ防災・天災への備えを強化するという事は大事な事ではないかなと思っております。

外国人市民会議を岡山市でされていますが、その外国人市民会議の中に出てきたいろいろな課題は市民協働で解決することができるのではないかと思います。その中の意見も積極的に取り入れていくのがいいのではないかと思います。

それから、ソーシャルビジネスに取り組む企業や団体・個人を支援するという事なんですが、地域社会の課題を解決する組織として、大きなものではありませんが、コストを抑えて公共性の高いサービスができるのではないかと思いますので、そういうソーシャルビジネスに関心を持つ企業や NPO など、セミナーや相談会、どんなしくみにしたらそういうことができるのかというような相談会をして、数とか職種を増やしていくというのはどうかと思っております。

10 年ぐらい前には、市の会議では財政改革というのがよくいわれておりました。最近ではあまり聞かないので安心はしているんですけども、財政を破たんさせず行政サービスを持続できる、安心・安全の自治体の構築ということをぜひよろしくお願いいたします。以上です。

○小松委員 表面的なことぐらいしか言えないんですけども。やっぱり、ほとんどの方がおっしゃってますように、公民館活動というのは、ちょっとした勉強会なんかで呼ばれて行ったりして感じることは、地域での、まさに心の拠りどころ的な立場だなど。そういう意味で、これから先はますます重要性が高まっていくんだろうとは思っておりますが。

逆にいいますと、そこを使われる方とそうじゃない方々での認識の差といいますか、温

度差といいますか、評価の仕方がかなり違ってくるんじゃないかな。変な言い方ですけども、開かれた公民館活動といたらおかしいですけども、やっぱりその館長さんの手腕1つでかなり変わっていくんじゃないかなと思っておりますので。そういう場面での活動を行政としても支援していただきたい。されてるんでしょうけども、端的にやっていただければと思います。

それから、やはり自主防災組織というものが、先ほども町内会は下請けじゃないよというお話がありましたけども。やっぱり自分たちのところを可能な限り自分たちで、天災は防げないけども可能な限り人災は防ごうよというような意味合いがあると。そういうものの組織化というものを、やはりサポートしていく。

あるいは、私自身、町内会に恐らく自主防災組織的なものがないんじゃないかなと正直思っているんですね。そういった地区もいっぱいあるはずですし、あっても私が気づいていないのかもしれないというようなこと、諸々ですが。やっぱりもう一度光を当ててみる必要があるんじゃないかなと思っています。そのためにも、表彰とか広報誌などでぜひいろんなかたちで紹介して、なるほどという雰囲気をつくりあげていただければと思います。以上です。

○塩見委員 梶谷委員、阿部典子委員もおっしゃいましたように、安全・安心ネットワークでNPOとか企業等の参加を促進するということです。同じ学区内にも郵便局とか、それから商店とか、スーパーとかありますので、そういう方にも入っていただいて一緒に活動していけば幅が広がるというふうに思っております。

それから活動分野なんですけれども。高齢者の支援を、交通安全とか防犯は非常に率が97.5、93.8とよろしいんですけれども。高齢者支援が84パーセント、それから子育て支援は60パーセント、それからまちづくりは約半分なんです。防災とか減災の面でも、活動分野を、まちづくりもそういうものも入れた活動にしたらというふうに考えております。

○高旗委員 私事になるんですけれども。実は、私、大学教員としてのスタートは島根大学の教育学部でして、平成22年3月まで勤めました。その後、故郷のある岡山に戻ってまいったわけなんですけれども、戻りました当初、一番驚いたのは、地方ニュースにおける事件と事故と火事の多さなんですね。もとより人口規模が全然違います。松江市は20万人ほどですし、島根県民をすべて足しても岡山市民の数に届くかどうかですので、それは規模が全然違うんですが、それにしても、岡山でそういう報道が出ない日はないなというふうに感じたことがあります。我がふるさとながら、「これは大変なところに帰ってきたな」という思いをしたことがあります。

今回いただいた資料を拝見しましたときに、例えば17ページですね。安全・安心ということをして事件・事故・火事の類いだけで集約するのは、指標としては偏っているわけですが、ちょっと気になりますのは、例えば17ページの右下の、これ暫定というふうにあるので、

ひょっとしたら数字が動くのかもしれませんが。人口千人当たりの刑法犯の発生件数がすごく多いなど。ほかの都市と比較するといけませんけれども、普通の感覚だとこっちの都市の方が多んじゃないかなと思うところを、はるかに超えて岡山が多いというのはどうということなんだろうということを、率直に疑問に思いました。

問題はその内訳でして、窃盗犯が多いことが件数を上げているんだとすると、実は凶悪犯・粗暴犯はものすごく少なくて、それだけを取れば順位は下がるのかなと思いたくもなるんですが。ちょっとそのデータがないもんですから気になってるところです。

それと、次の18ページの人身事故件数も、なんで岡山はこんなに多いんだろうと。これも暫定となっていますから動くのかもしれませんが。どうしてこんなに多いんだろうという。これは、ちょっと危機的なような気がします。

今の2つのデータが何によるのか。社会構造の問題なのか、それとも警察力の違いなのか、ちょっとその辺は私もわかりませんが。やはりデータをもうちょっと詳細に分析することの中で、安全・安心ということを考えていく必要がある。

20ページの火事もそうですね。これももう上から数えた方が早いという。そうなりますと、ここでどういう類いの出火が多いのかが気になるわけです。先ほど申し上げた単身の高齢者の世帯における火事が多いのかどうかということも、ちょっと気になるところで。それが多이었다ら、今後それがますます増えていくことでしかありませんから。そういったことのデータを丁寧に整理していただいた対策というものを講じて、本当の意味で安全・安心ということを実現していただけるといいなというふうに思いました。以上です。

○浜田委員 資料1-4で一番印象的なデータは9ページ目のデータで、市民の地域活動への参加状況ということなんです。参加していない人が半分いまして、特に20歳代は7割以上が参加しないということなんです。そこが注目されていますけど。むしろ、60歳代の方が4割近く70歳以上の方でもやっぱり4割近く地域活動に参加していないことになっております。

若い人は、やっぱり結婚して子どもをつくって、で、育児とかに男性も関わっていったということで、だんだん地域に関わるということを地道に進めていくしかないのかなというふうに、私自身は思っています。高齢者というか、60歳代とか70歳代以上につきましては、きっかけがないとか情報がないとかというのが理由になってるんですが。特に男性高齢者の孤立化とか、そういうことがちょっと心配だなというふうに感じます。

それから、安全・安心ネットワークの活動については、メンバーが高齢化・固定化、若い世代の参加が少ない、地域住民が無関心と、いろんな課題があるということなんです。1つ、なんていいますか、解決方策としては、最近、在宅医療とか在宅介護で、例えば、岡山市の職員の方が出前講座にいろんな地域に出かけたり、それから、地元の地域包括センターなんかの方々も非常に活躍されていて、地域にかなり深く関わっておられるんですけども。そういうものが、だんだん地域住民の組織の活性化とかにつながる可能性もある

のかなと。

医療とか介護から入って、高齢者の足の確保の問題とか、一人暮らしの方の食事の配置の問題とか、そういうまちづくり全体につながるような可能性もあるのかなということを考えました。また、地域の問題に我々大学の研究者をコーディネーターとして活用していただくということも、できるだけ我々としては積極的に関わってきたいと、そんなふうを考えております。

○藤原委員 自然災害に対して大変危機管理意識の少ない岡山市民。今、私は別のところで南海トラフ巨大地震の発生時の話を聞きました。28 ページの浸水のところにデータがあるんですが。私が聞きました情報と随分違うものがございまして。そちらの資料によりますと、南海トラフ巨大地震が起きた場合の浸水状況の話が出ましたけれども、私が住んでる津島辺りで2メートルの浸水があると予想されるというふうなニュースを聞きました。ここの資料と随分違うので、どちらがどうか、私はわかりませんが。

先日、洪水警報が岡山市に発信された時の話ですが、警報は出たけれども、どこへ避難したらいいかわからないから家にいたということが書いてあったので、やっぱり岡山は危機管理意識が少ないんじゃないかというふうに思いました。広報誌など、市民だよりなどで、やはりそういうことを徹底して周知していただきたいと思っております。一番怖いのは、本当にこの地震だと私は思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○泉副会長 私の方から1つだけ。社会インフラが安心・安全を担保しているということをオープンになさったらどうかということです。この前、橋が危ないというデータがあって、そういう議論もありましたけども。多分、財政の問題がいっぱいあって、大きな話になると思うんですけども。安心・安全を担保してるのは、やっぱり社会インフラがきちっと安心・安全なんだということからスタートすると思いますので、そこをアピールないしはオープンになさったらどうかというふうに思いました。以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。その他、2番目のESDですけれども、昨秋、岡山市で世界会議が開かれまして、岡山モデルということで大変高い評価を受けたことは喜ばしいことだと思うんですけども。このESDを、ここに書いておりますように、今後どういうふうを目指していくのか、目に見えるかたちで目標や具体像を描いていくのかということが課題であろうと思いますけれども。何をすべきかの項目に書いてありますように、環境への配慮、地産地消、人間優先といった、そういう持続可能な生活スタイル、地域構造に改めるということ。

その点で、先般市長さんが視察をなさったポートランドが手本、手本というかモデルになり得ないのかなというように感じました。もし、あとで御意見をお聞かせいただければありがたいと思います。ということでございます。

○梶谷委員 すいません。1つだけ言わせてください。市民協働でぜひお願いしたいのは、市の職員の方が、若い人も含めて、いろんな社会活動にどんどん積極的に参加をしていただく。町内の活動なんかにも、まず市の職員の方が地域の、自分が住んでるところのそういった活動に参加をしていただくということが、非常にいろんなことを考える上で重要なんじゃないのかなと感じています。

○越宗会長 当然それは実践もしてらっしゃるし、お考えだというふうに思います。よろしくをお願いします。

以上で協議事項が終わりました。協議事項の1が終わりました、2にその他とございますが、事務局から何かありますでしょうか。

○事務局（門田） 事務局でございます。特に協議事項ではございません。確認の意味で、次回以降の予定を申し上げておきたいと思っております。次回からは、3回にわたって主要な政策分野の長期的な方向性や重点課題について御審議いただきたいと思っております。開催日程でございますが、第3回は7月29日水曜日、第4回は8月20日木曜日、第5回は8月25日火曜日で、開催時刻はいずれも14時からを予定いたしております。御都合に合わない委員の方には大変恐縮でございますが、何とぞよろしくお願いいたします。

○越宗会長 ただいま御説明にありましたように、次回以降8月末までに、3回にわたって政策分野別の長期的な方向性あるいは重点課題についての討議を精力的に行ってまいりたいと、このように存じます。委員の皆様には、何とぞ御理解の上御出席をいただきますようお願いをいたします。

皆様の御協力で、何とか時間内に終われることができそうではありますが。市長の前に、池田委員さんが今回をもって連合町内会の御都合で委員を引かれるということでございます。一言御挨拶をお願いします。

○池田委員 貴重な時間をいただきまして申しわけございません。私、岡山市連合町内会で役員の一員としてこの審議会に出席をさせていただきました。先般、連合町内会の総会がございまして役員の変更がありました。そういうことで、短い間でございますけど、大変お世話になりました。ありがとうございました。次回からは新しい人が来るので、私同様よろしくお願いいたします。

○越宗会長 ありがとうございます。それでは、最後の締めくくりで、大森市長さんに1つコメントをお願いしたいと思います。

○大森市長 今日は、どうもありがとうございました。貴重な御意見をいただきまして、

本当にありがとうございます。十分参考にしながら文章づくりの整備をしていきたいと思  
います。

少し私の感想的なことも申し上げたいと思います。まず、最初の健康・医療・福祉です  
が。岡山の場合、医療福祉が進んでるといいますか充実している分、充実しているからこ  
その悩みというのもあるわけですが。そこは悩みとしては解消していかなきゃいけないと  
思いますけれども、我々の持つ強みであることは間違いないわけで、それをどう生かして  
いくかというのを、これからも御議論いただければというように思います。

2つ目の教育・子ども・女性ですが。まず教育に関しては、やはり学力向上、その問題  
構造をできるだけ減少するということにポイントがあるわけですが。私もいろい  
ろな資料を見させていただいて、高旗委員がおっしゃった先生の負荷というのが、従前に  
比べて非常に大きくなってきている。これは、なかなか大変だなというように思いました。  
社会全体でどうそれを取り除いて、先生が威厳を持って対応できるか。そのところは、  
我々も本当に考えていかなければならないなというように思ったところであります。

あと、女性の管理職の目標、そして男性の意識改革というような議論がありました。ま  
ず隗より始めよということで、我々岡山市はいくつかの施策をやらせていただけてるん  
ですが。例えば、岡山市だと子育て休暇をとにかく 100 パーセント取るということを今回掲  
げまして動いています。そのための制度の改正も行い、所属長への指示も行ったところ  
です。藤原さんがおっしゃったように、藤原さんが社長になられてから会社の中も変わった  
というようなこともありますし。やはりトップの意識というのがすごい大きいんじゃない  
のかなというように思います。経済界等々のこれからの組織、どういうふうにその中で御  
議論いただくのか、そういうこともまた議論させていただきたいというように思っている  
わけであります。

それから、あと歴史・文化・芸術・スポーツであります。これは、皆さん方おっしゃ  
ってるように、故郷愛に通ずるものであります。それぞれ、特に歴史・文化等々に関して  
はあまり発信されていないんじゃないか。発信というのは、外部はともかく市民にも発信  
されてないんじゃないかなというように思っているところであります。そういうことをど  
うやって発信をしていくのか、また御相談させていただければと思います。

それから、連携という話が多くあったわけでありましてけれども。実は、この前大きな問  
題になりました大阪都構想の中でよく言われたのが、大阪府の体育館と大阪市の体育館、  
これが二重行政ではないかというようなことを言われてたんですけども。ある面そういう  
ところから見ると、最たるものというのは後樂園と岡山城だったかもしれないような気もす  
るんです。だから、制度的なものをどうこうするよりも、やはり一緒になって何かそこを  
変えていくということが、私も必要だろうというように思います。もう先生方の御指摘の  
とおりだと思います。後樂園、岡山城もまだまだ十分じゃないと思いますし、ほかの施設  
も同じようなものはいくつもあるといようなことでありますので。御指摘をまた具体的  
にいただければと思います。

最後に、市民協働、ESD、安全・安心ですが。市民協働さまざまな地域との問題、そしてNPOとの問題、積極的にやっていかなきゃならないと思いますが。ESDについては、今回も日本側からユネスコに全国で3件の中の1つとして、阿部先生が会長をやっていたいる岡山ESDの協議会が選ばれました。そのように非常に高い評価を受けておりますので、ユネスコもキーパートナーというかたちで岡山市を選んでいただいています。これをまた、その前の情報発信の手段にも使いながら、そういう定着を図っていきたいなというように思っております。

今日は、本当にありがとうございました。

○事務局（植月） これをもちまして、本日の平成27年度第2回岡山市基本政策審議会を閉会いたします。皆様、お疲れ様でございました。

閉会